



冬の特別貸出について

★期間：～12/23（金）

★貸出冊数：6冊まで
（期間中何回でも借りられます）

★返却：始業式の日



～お知らせ～

冬休み中図書館は閉館です

本の返却は返却ポストに
お願いします



『羊男のクリスマス』

村上春樹

聖羊祭日にドーナツを食べてしまった呪いでクリスマスソングの作曲ができなくなった羊男。穴のあかないドーナツを持って、冒険に出た彼を待ち受けているものは・・・



12月に 読む本



『クリスマス・ボックス』 リチャード・P・エヴァンス



アメリカのソルトレーク・シティにあるヴィクトリア朝の古い館。そこに1人で暮らす上品な未亡人の所に住み込んだ若い夫婦はやがて自分たちがただの家事手伝いとして雇われたのではない事に気付く。そしてその秘密はクリスマスに明かされるのであった。

今回紹介した本は図書館にて展示中です

『ライ麦畑でつかまえて』

J.D.サリンジャー

17歳の少年ホールデンはペンシー校から成績不良で退学処分を受ける。学校を追い出される前に自分からここを出て行くことを決めたホールデンはクリスマス前のニューヨークへと向かう。ニューヨークでも社会と折り合いをつけられず傷つき帰宅したホールデンは、妹に自分になりたいものを語る。青春小説のロングセラー。

『キャロリング』 有川 浩

大和俊介が務める子供服メーカー「エンジェル・メーカー」は12月25日で「クリスマス倒産」することとなった。エンジェル・メーカーにある学童保育では両親が別居中の田所航平だけは最後の日まで世話になることになっていた。両親に離婚して欲しくない航平は何とかして両親を仲直りさせるべく、大和の同僚の折原柊子と共に父親の祐二の居る横浜へと向かう。



図書室のおすすめ いま読んでおきたい本



『夜が明ける』 西 加奈子

“夜が明ける。素敵な言葉だと思う。夜が明ける。みんなの夜が明けるんだよ。君にも教えてあげたい。”

高校で「俺」は、身長191センチのアキと出会った。普通の家庭で育った「俺」と吃音のアキは、互いにかげがえのない存在になっていく。大学卒業後、「俺」はテレビ制作会社に就職し、アキは劇団に所属する。しかし希望して入ったはずのその世界は、理不尽に満ちていて…。

思春期から33歳になるまでの二人の友情と成長が描かれる。「俺」とアキの物語のラストは大きく心ゆすぶられるものだが、それは感動だけが理由ではない。現代社会に存在する問題を描き出しながら人生の奇跡をあざやかに見せる長編小説。

『「みんな違ってみんないい」のか？』

『相対主義と普遍主義の問題』 山口裕之

“多くの人は「人それぞれ」の相対主義か「真実は一つ」の普遍主義かという二者択一に陥りがちですが……相手のことをよく理解しようとしないうちは似たようなものです”

昨今よく聞かれるようになったこの言葉。その主張は、本当に多様な他者を尊重することになっているのか。考え方の異なる者同士がともに生きていくために、「正しさ」とは何か、それはどのようにして作られていくものかを、さまざまな学問のこれまでの議論を概観したうえで考える。